

AICHI
PREFECTURAL
MUSEUM
OF
ART

MEMBERSHIP

愛知県美術館友の会 会報 第53号

空中回廊

コレクション展紹介：「文人趣味と煎茶展」「追悼 設楽知昭」
会員のひろば：美術館さんぽ、企画展鑑賞会、記念講演会、特別鑑賞会
収蔵庫から：篠原猛史《真っ直ぐな曲線》
理事会から



篠原猛史《真っ直ぐな曲線》2004年

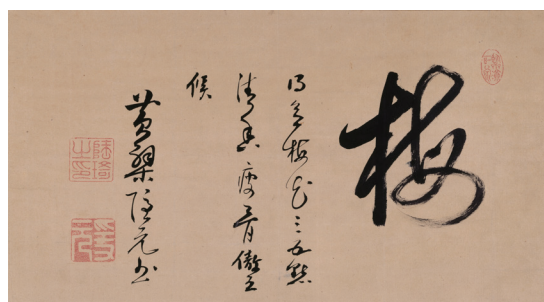
特集展示 木村定三コレクション **文人趣味と煎茶**

2022年10月29日～12月25日

この特集展示は、幅広い時代と分野にわたり、総数3,000件あまりを数える木村定三コレクションの中から、ひろく文人趣味に関わる作品を紹介するものです。

そもそも「文人趣味」とは何なのでしょう？まず「文人」というものから見ていくと、その在り方や精神性については、中国と日本、それぞれの時代によって様々な解釈があります。一般的には、中国宋代の士大夫階級（官僚登用試験である科挙に合格した官僚知識層）を代表者格として、学問とともに書画等の教養を身に付けた人々のうち、政治とは距離を置き、琴棋書画（琴と碁と書と絵）といった風流事を自らの楽しみとした人々をさします。日本では江戸時代から明治時代、大正時代にかけて、中国の文人の生き方や価値観に憧れて、風雅な世界観に身を置いた人々が文人と呼ばれました。中国の文人への憧れに由来する「文人趣味」は、中国古典の書物や漢詩、絵画に通じ、自らも詩や絵画の創作を楽しみ、文房具や各種工芸品を大切にし、茶や香、花などをたしなむといったことであり、それら風流事に関わる文物も大切な要素となります。

今回の展示は、中国明代、清代の書画や江戸時代の禅僧による墨蹟、中国南宗画の影響を受けた南画や文人画、玉器や青銅器、文房具、煎茶具など、主に日本の文人たちが手がけたものや、かれ



隠元隆琦《梅一大字 得色梅花三五點云々 七言二句》
江戸時代前期（17世紀後半）紙本墨書

らが好み、楽しみ、関心を寄せた品々で構成します。出品予定作品の一部を挙げてみましょう。

墨跡は中国の禅僧で江戸時代前期（17世紀半ば）に日本へ渡来し黄檗宗（おうばくしゅう）を開立した隠元隆琦（いんげんりゅうき）、彼に中国から招かれた木庵性滔（もくあんしょうとう）、即非如一（そくひによいつ）らの作品が並びます。隠元が日本にもたらした中国文化は、書以外にも美術、文学、建築、煎茶など幅広く、江戸時代の文化全般に影響を及ぼしました。わたしたちが現在も名前を知る隠元豆、西瓜、蓮根、孟宗竹、木魚などが日本にもたらされたのも、隠元の渡来がきっかけでした。



南画は中国の文人画の理念と南宗画の様式を中心としつつも、様々な明清の絵画様式の影響を採り入れて、江戸時代中期（18世紀）に成立しました。南画を大成した与謝蕪村や、個性を発揮した浦上玉堂などの作品は、館外の展覧会への出張が



与謝蕪村《富嶽列松図》江戸時代中期（18世紀後半）紙本墨画淡彩 重要文化財



富岡鉄斎《虎養育子図》大正3（1914）年 紙本着色

多く、当館で久しぶりにご覧になれる機会となるでしょう。書画一体で鑑賞される俳画・詩画では与謝蕪村、呉春（ごしゅん）などがあります。ほか、白隠慧鶴（はくいんえかく）、仙厓義梵（せんがいぎぼん）、伊藤若冲、長沢芦雪たちの水墨画を展示予定。幕末から大正時代にかけての儒学者で文人画家・富岡鉄斎の作品も外せません。

文房具のなかで、文人による各種表現のために欠くことのできない筆・墨・硯・紙は、文房四宝と呼ばれます。一般的に、文房四宝の筆頭に挙げられるのは筆ですが、木村定三コレクションでは硯が数多くみられることが特徴です。硯については、石という材質がもつ特徴や美しさ、石に施された装飾や文様などをお楽しみいただければと思います。

煎茶は、江戸時代中期、売茶翁（ばいさおう）・高遊外（こうゆうがい）によって広まりました。文人の嗜みとされ「文人（煎）茶」とも呼ばれるようになります。煎茶が中国から伝えられたこともあって、初期の煎茶具は中国製が中心でした。日本の文人に好まれたのも唐物と呼ばれる中国宋代以降の器物で、日本でも多くの写しが作られました。また、中国古代の器物や茶の湯の器を、煎茶具に見立てて転用することも行われました。特集展示では、この見立ても交えながら、煎茶に関わる道具を展示する予定です。



《三彩畷文水注》
中国
清時代（18世紀～19世紀）



《紫砂茶壺(烏泥茶鉢)》
中国
清時代（18世紀～19世紀）



《青花鶏文杯 5客》中国・明時代末（17世紀前半）

愛知県美術館では木村定三コレクションを受贈してから、多くの専門家の方々のご協力を得て当コレクションの調査研究を続け、研究紀要や図録、展示等を通じて作品の魅力をお伝えすることに取り組んできました。その中で数多くの方々の尽力を経て、愛知県美術館が「文人趣味と煎茶」というテーマで図録を刊行したのは2018年のことです。図録の刊行からあまり時間を置かずには特集展示ができればよかったです。愛知県美術館の改修工事休館や、先に愛知県陶磁美術館さんで開催された、文人趣味と煎茶に関する企画展へ作品をお貸出するなど、諸事情によって今回のタイミングとなりました。そのかわり、今回の特集展示は、なんと展示室二つ分に展開予定。ぜひ『文人趣味と煎茶』図録とともに楽しみいただけますと幸いです。

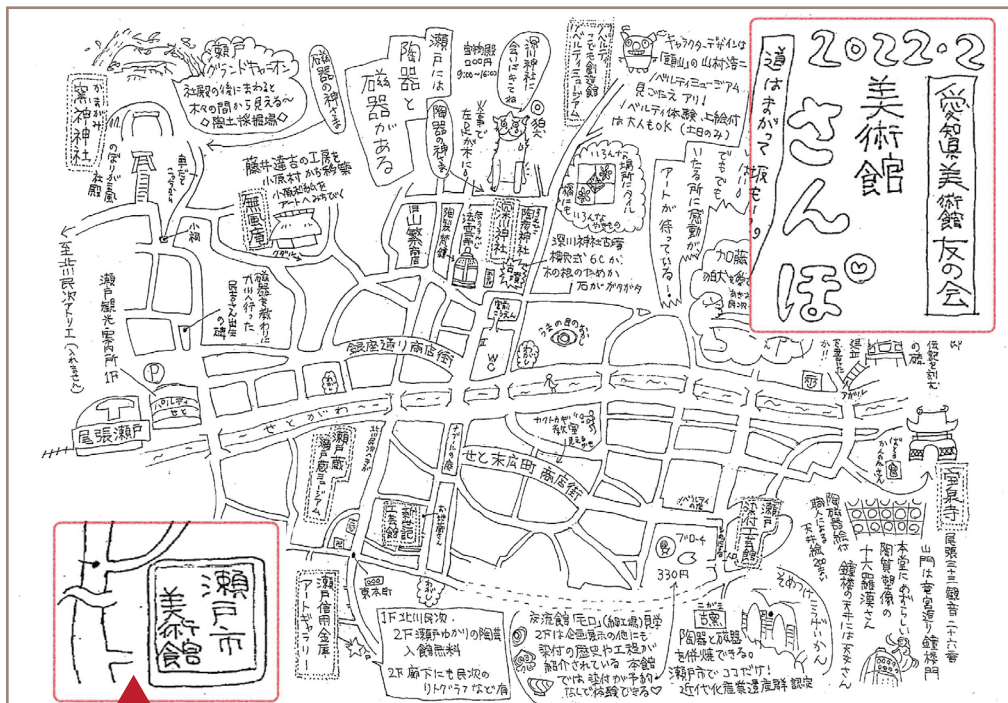
愛知県美術館学芸員 中野 悠

美術館さんぽ

瀬戸市美術館と瀬戸市まちなか

2022年2月26日(土)

企画展だけでなく、美術館そのものの雰囲気やその周辺も楽しむのがコンセプトの「美術館さんぽ」。二回目は瀬戸市美術館を訪れました。瀬戸市美術館は駅から少し離れた公園の中に建てられています。当日は天気もよく絶好のおさんぽ日和となり、鑑賞会の終了後に、街歩きを楽しんでいる会員さんも多かったようです。



参加された会員のみなさまには、友の会手づくりの「瀬戸市まちなか案内図」をお配りしました

10時30分からスタートしたギャラリートークはコロナ対策としてイヤホンガイドで行われました。

企画展は「川本治兵衛 瀬戸染付の精華そして湖東焼」展。川本治兵衛は19世紀中期を代表する瀬戸染付の窯屋で、三代にわたって生産活動を続けていました。当時は作品に銘を入れることが少なかったため、本物を特定するのにとても苦労したそうです。最高級の瑠璃釉が分厚く塗り重ねられ、深い藍色に包まれた作品はとても神秘的で魅了させられました。



服部文孝館長と山内香穂学芸員から、展示作品の詳細な解説をお聞きました。

美術館のスタッフさんに教えてもらった”瀬戸焼きそば”をテイクアウト。甘めのソースがつゆです。



参加された会員のみなさん

今回お子様と一緒に参加された、青木さんに感想をうかがいました

「瀬戸に住んでいるのですが、なかなか足を運ぶことができませんでした。今回このイベントに参加して、学芸員さんの解説を聞くことができ大変良かったです」

企画展鑑賞会

古川美術館 分館 爲三郎記念館
佐光亜紀子 洋画展 花と月と世界遺産 鑑賞会

2022年3月26日

解説 佐光 亜紀子 氏 (画家)

2021年12月から3ヶ月ぶりの古川美術館。美術館のご厚意により久しぶりに、画家のお話を直接聞く機会を設けることができました。

佐光先生が初めて個展を開いてから50年、花や世界遺産、ヨーロッパの都市などをどのような思いで描いてこられたのか。また、作品を爲三郎記念館で展示するにあたって日本建築にどのように合わせるか考えたこと、一部屋ずつ特徴的に展示したときの思いを伺いました。お話のあとの記念撮影では一瞬、マスクを外してパチリ。その際、元テレビマンが思わず「先生。オーラがありますねえ。」と感嘆の声を上げたのが印象的でした。



展示作品の前にて



参加された会員のみなさま

その後は会員それぞれが展示室で鑑賞し、佐光先生に作品についてお話を伺うことができました。

雨だけでなく激しい風も吹く、荒れた天気の中での鑑賞会。しかし暖かい色合いで描かれたヨーロピアンエレガンス漂う作品をたのしみ、一足先に春を感じるひとときでした。

ミロ展 特別鑑賞会

解説 副田 一穂 愛知県美術館主任学芸員

日時 2022年5月5日

会場 愛知芸術文化センタースペースAほか

今年度初の特別鑑賞会。ミロ展はすでに東京で開催されていたので、待ちに待った展覧会でした。企画者の副田氏は、すでにテレビや動画などで解説されていましたが、会員向けにも、ミロへの愛情あふれる楽しいお話でした。閉館後の会場では、作品を前に綿密な調査をもとにしたお話もあり、じっくり鑑賞する素地ができました。



友の会総会記念講演会

講師 拜戸 雅彦 館長

日時 2022年5月21日

会場 愛知芸術文化センタースペースA

2022年度総会の後で開催された記念講演会の講演者は、昨年が続いて拜戸館長です。昨年は辻邦生・佐保子夫妻との交流やイタリア・ルネサンスを専門とすること、トリエンナーレに携わったときのことなどをお話いただきました。

今回は、美術館に配属されてから国際芸術祭推進室に異動されるまで。クレーの代表作を揃えた「パウル・クレーの芸術」展（1993年4月～5月）のサブ担当を皮切りに、様々な分野の展覧会を担当されたとのこと。また愛知県文化情報セン

ターの情報誌『AAC』への寄稿など、展覧会以外の仕事にも積極的に取り組んでこられたそうです。

展覧会のポスターや写真のスライドを拝見し、足を運んだ展覧会を懐かしく思い出しました。またお話のなかで「がむしゃらに」「矢継ぎ早に」「ひたすら」といった言葉を何度も耳にしました。お人柄を感じるとともに、時代が違うとはいえ、現在仕事への向き合い方で悩んでいる人にも、館長のこのお話を聞いていただきたいと思いました。



《透明壁画、人工夢》2005年 テンペラ・シリコンラバー、ポリエステルフィルム 480.0×920.0cm

2020年の11~12月、愛知県美術館友の会会員限定視聴の動画として、翌年3月に愛知県立芸術大学教授の退任を控えた設楽知昭さん（以下敬称略）が10月から行っていた退任記念展会場での作家トークが配信されました（会報第50号参照）。

全体がどんな絵になるのかは計画せず描き始め、制作中にキャンバスを切って左右を入れ替えた作品もあるといったお話から、直感や偶然性を重視する画家だと感じた方々も多いでしょう。けれども元来の設楽は、キャンバスに油彩という定番形式さえ慎重に避け、「見る・見える」ことの意味から考察を続ける人でした。

私が設楽の人と作品に初めて間近で接したのは1994年、名古屋にあった白土舎での個展直前のこと。同僚（現・拝戸館長）に誘われて勤務後画廊へ行き、仮設の漆喰壁に設楽がフレスコ技法で夜通し描く現場に立ち合わせてもらったのです。手術用手袋をはめた手に絵具をつけ、3面の壁に緑・黄・青一色ずつでの荒々しいタッチは初め抽象画のようでしたが、やがて風か水の流紋のような線の中に、大きな顔や逆さまで宙を飛ぶ（または落下する）人物などが現れ始めました。私には設楽が、肩から指先までの近距離にある固く平らな壁の触感と、視覚で

の奥行き感とのギャップを確かめているように見えました。この前年に設楽は自分が着ている服に掌で描き、「目」を中心に「からだ・まわりの世界」を一つにしようと試みています。さらに遡る1986年頃には鏡に描いた絵を石膏に転写し、左右反転の鏡像を再反転することによって鏡の中から見えた絵を出現させており、その後鏡から薄い雁皮紙に写し取った作品では紙両面での濃さがほぼ等しく、鏡の内と外の境界や目の網膜を思わせました。2000年頃には透明なポリエステルフィルムを通して見えるものをなぞるという機械的な方法から、逆に死後や架空の世界が画題となり、壮大な《透明壁画、人工夢》（2005）などが生まれました。こうした実験と探求を経た2008年頃からのキャンバス油彩画では、増殖するモチーフや空間の交錯など、イメージの奔流に驚かされ続けました。

2021年7月27日に設楽は亡くなりましたが、既に退任展の折、余命を教え子などに告げていたそうです。最期の作品群では絵を拵えることをせず、なお描きたい、描かずにいられないイメージが心に浮かぶのを待って制作されていたのかもしれませんが。あらためてご冥福をお祈りし、24件の所蔵品ほかによる特集展示をいたします。

愛知県美術館企画業務課長 深山孝彰

篠原猛史 《真っ直ぐな曲線》

不思議なタイトルに思われるかもしれない。「真っ直ぐ」と「曲線」は通常感覚であれば相容れない。それは数学を学ぶときに必ず登場してくる、あの虚数の存在、マイナス1の平方根と同じようなものかもしれない。単に物質としては成立しないだけで、X軸とY軸で表される座標軸を用いての、交点となるゼロ地点、そしてマイナスといった考え方は、数式を使って表現される物理学の世界においては普通のもの。同様のことがアート制作においても援用される。今回紹介する篠原の作品には、「場と量の変換性」というサブタイトルがついており、さらには「風の力」というサブタイトルもある。作品としては、飛行機型の三次元の本体に光があたっていると想定して、床面に伸びていく影が二次元的に造形化されていて、そのまま彫刻でいうところの台座となっている。その影も、鏡面の部分と鏡面ではない部分で二重となっている（鏡面は言うまでもなく実体を反転させてイメージとして映し返す。そこに映っているイメージを仮に「虚体」と呼ぶことも可能だろう）。さらには飛行機型の先端と尾にはプロペラがついており、手前から風が流れると、双方のプロペラは互いに逆向きに回転するようになっている。風が引き起こす回転は飛行機本体を揺らし、それが振動となって、音となる。美術館の展



篠原猛史 《真っ直ぐな曲線》2004年
鉄・ステンレス 49.3×151.3×76.5 cm

示室で、この作品が振動するような風が起こることはない。けれども、三次元の本体とその影の表現といい、風という目には見えにくい力によって作品が動き出し、音を発するという仕掛けといい、視覚されるものとしても、見えずに聴覚されるものとしても、自然に存在するものたちは常に変化して何かに置き換わり続けるという、世界の循環性を示してくれている。これが篠原の世界観である。

さて、実体を失っても「虚体」は残りつづけ、さらにはその変換が繰り返されてきたのが、美術史だ、というようにも考えられないだろうか。

拝戸雅彦



学芸員の横顔

拝戸 雅彦

-Masahiko Haito-

職名：愛知県美術館 館長

1964年、名古屋市生まれ、名古屋大学文学研究科博士課程後期美学美術史専攻中退。専門はイタリア・ルネサンス美術。

1991年に愛知県庁総務部文化振興局に技師として入庁。

1992年より愛知県美術館に勤務。学芸員、副館長を経て、2021年4月より現職。美術館で開催された多数の企画展のキュレーションに関わる。あいちトリエンナーレは事業立ち上げから関わり、あいちトリエンナーレ2010・2013・2016はチーフキュレーターとして携わる。





理事会から

總會のご報告

2022年度の友の会総会は5月21日土曜日午後1時30分から、アトスペースAにて開催しました。

昨年度の事業報告及び収支決算報告（第1号議案）、今年度の事業計画及び収支予算案（第2号議案）、新しく迎えた田中寛氏・城崎影子氏を含め16名になった友の会理事の紹介（第3号議案）など、全て承認されました。

今年度の事業計画として、引き続き会員の加入促進、会員を対象とした企画展鑑賞会（旧：他館鑑賞会）、講座、特別鑑賞会等を企画しています。そして昨年度から始めた「美術館さんぽ」（企画展の有無にかかわらず、近隣の小さな美術館を、散歩がてらに一緒にまわっていく）と、動画配信（開催した講演・講座の記録配信）をさらに充実させる予定です。

友の会を運営し行事を企画するうえで、総会返信ハガキの「ご意見記入欄」に記されているコメントや総会でいただくご意見はとても参考になります。ご提案いただいた内容と「愛知県美術館友の会」の在り方とを合わせて今後、協議を進めていく所存です。

今年は「国際芸術祭あいち2022」が開催され、愛知芸術文化センターは重要な会場となります。愛知県美術館の協力もあり、会員みなさまに今回もフリーパスを提供していただけることになりました。長引くコロナ禍ですが、状況が変化しながらも、少しずつ活動的な兆しが見えてきそうです。中止となっているイベントなどを少しずつ再開するだけでなく、いい企画をたくさん実現できることを願っています。

愛知県美術館友の会 会長 小林克敏

編集後記

引いたかと思えばまたやってくるコロナの波。楽しみにしていたことが、次々と変更・中止されていきます。ため息をついたらそのまま深く息を吸い、無理にでも深呼吸に変え、新しい楽しみをつくりたいものです。

- 編集 松下智子 稲垣真美代／喜田泉／小林克敏／冨永晃一／森健次
- 協力 愛知県美術館
- 発行 2022年9月

定例活動

2022年4月～2022年9月

所蔵品管理	モニター	発送	受付 ^{（要）}	広報	ホームページ	理事会
0回	2回	4回	4回	7回	随時更新	5回

第52号 友の会活動紹介 2022年4月～2022年9月

- 4月・定例活動のみ
- 5月・特別鑑賞会「ミコ展 日本を夢みて」
・特別鑑賞会 動画配信
・2022年度総会 記念講演会（拝戸館長）
- 6月・総会記念講演会（拝戸館長） 動画配信
- 7月・定例活動のみ
- 8月・特別鑑賞会 国際芸術祭「あいち2022」
- 9月・企画展鑑賞会 国際芸術祭「あいち2022」（一宮市）

友の会 これからの活動予定

（変更が生じる場合があります）

11月・企画展鑑賞会

日時未定ですが鑑賞会・講座なども計画中です

これからの展覧会のご案内

 **STILLALIVE**
国際芸術祭 あいち2022
2022.7.30-10.10

ジブリパークとジブリ展
2022.10.29^{sat}-12.25^{sun}

展覧会 **岡本太郎** 2023
1/14
3/14
Okamoto Taro: A Retrospective

友の会入会のご案内

詳しい活動内容を知りたい方、入会をご希望の方は事務局（下記）までお問い合わせください。入会のご案内パンフレットやホームページでも詳しく紹介しております。ぜひご覧ください。

受付場所 ★愛知県美術館 10階受付
★友の会事務局 ★振込も可

愛知県美術館友の会

〒461-8525 名古屋市東区東桜一丁目13-2
愛知県美術館内（愛知芸術文化センター10階）

✉ info@apmoa-tomo.com

ホームページへのアクセスはこちらから

愛知県美術館友の会 検索

apmoa-tomo.com

tel. 052-971-5511（代）

fax. 052-971-5617

（火・木 11:00～15:00）

[twitter](https://twitter.com/apmoafriends)

[@apmoafriends](https://twitter.com/apmoafriends)

